

はじめに

国際教育研究センター長 中 植 正 剛

本年度で「国際教育研究センター」(International Education Research Center. 略称:IERC)は開設3年目を迎え、ここに国際教育研究センター紀要第3号を発刊いたしました。関係者の皆様方には厚くお礼を申し上げます。2016年度は、神戸親和女子大学開学50周年を記念して、各学科のご支援・ご協力によって数多くのシンポジウムや講演、イベントを実施しました。総合文化学科は、「韓国女性の歴史的変化～韓流の原点としての茨木のり子～」というテーマで客員教授の成恵卿先生にご講演いただきました。児童教育学科は、イタリア・カナダ・中国からゲストを迎え、「創造性を育む幼児教育を考える」というテーマで第11回目となる国際教育フォーラムを開きました。心理学科は、本間博彰先生による「震災と子どものこころ」という講演会を催しました。福祉臨床学科は、「福祉を教育・保育の現場から考える！」をテーマに、森田雄三先生にご講演いただきました。ジュニアスポーツ教育学科では、女性のスポーツリーダーに焦点をあて、「女性スポーツリーダー“指導者の役割と課題”」と題して、竹下佳江先生と客員教授の大林素子先生にお話をいただきました。どの講演をとっても、本学の各学科の専門領域から、現代の諸課題に肉薄する催しとなり、多くの聴衆の方に参加していただきました。

さて、紀要の第3号では、前号までに引き続き、多様な分野の教員・研究員からの投稿をいただきました。これらの投稿には、外国語教育や日本語教育における教員養成に関する研究、国際理解の推進についての研究、海外の教育事情の視察報告などといった、国際的な取り組みや国際的な関わりを直接的に視野に入れた論文・報告が含まれている一方で、日本の教育、心理、福祉の現場に密着した研究を国際的に発信するという視点で投稿された研究もあります。本紀要では日本語論文のアブストラクトは英語で記載するという投稿規定があり、さらに、投稿された論文はレポジトリにてインターネットに公開されます。投稿をいただいた皆様の地道な努力の成果が国内外の人々の目にとまり、本センターの研究が国際的な研究交流を力強く推進することを願います。

最後に、本紀要の編集と発刊にご尽力いただいた編集委員の皆様と、いつも明るく国際教育研究センターの諸業務に邁進してくださる事務職員の皆様に感謝の意を表します。